

ステファニー・ロドリゲス： チャンピオン&チェンジメーカー



2019年に脳マラリアに罹患したとき、ステファニー・ロドリゲス氏の人生は一変しました。

長く辛い闘病を経てアスリートへの道を歩んだステファニー。高レベルの国際的な車いすフェンシング大会で優勝するまでとなり、マラリア対策パートナーシップ支援のために積極的に発言しています。

ステファニーはグローバルファンドの「チェンジメーカー」です。

自己紹介をお願いします。

CEOであり、母であり、起業家であり、車いすフェンシングのチャンピオンであり、脳マラリアのサバイバーで、両足ともにバイオニック義足です。

2019年9月、出張先のナイジェリアで脳マラリアにかかりました。ある晩、足首3カ所を蚊に刺されたのです。翌日オーストラリアの自宅に戻りましたが、2週間後に救急車で病院に運ばれました。



写真提供: ステファニー・ロドリゲス

脳マラリアは急速に死をもたらします。あっという間に全身に広がってしまっており、2週間生死の境をさまよいました。

昏睡から目覚めると、全身が麻痺していました。後になって家族や友人が、医師から「あと5分ももたない。もう目覚めることはないでしょう。お別れをしてください」と言われたと聞きました。

命は取り留めましたがダメージは大きく、新型コロナウイルス感染症のピーク時に1年半入院し、手術も47回するなど、回復には4年を要しました。2021年にはこの病のために、

両足を失くすことになりました。

マラリアの破壊力を身をもって知った今、私の立場や発言を通じて、この致死的な病の根絶に全力を尽くしています。

罹患前は、マラリアについて何をご存知でしたか。

東南アジア、アフリカ、中南米の熱帯地域の人々がかかる病気だと思っていました。蚊を媒介として感染することは知っていましたが、人命にとって最大の脅威のひとつであり、容赦のないサイレントキラーであるとの認識は、ほとんどありませんでした。

しかしマラリアには適応性があり、気候変動に従って拡大し続けていることを知りました。

毎分1分の子どもが亡くなり、妊婦の感染比率が一般よりも高いということもです。問題そのものと、現状が皆にとっていかに深刻かを理解するのが第一歩です。

米国にも現在、マラリアの患者がいます。フランスにもです。地球はひとつであり、ここで抑え込んでおかないと、予防可能な疾病のために、さらに多くの犠牲者が出ることとなります。

どのようにしてグローバルファンドを知りましたか。またなぜ参加しようと思われたのでしょうか。



写真提供: ステファニー・ロドリゲス

2019年に昏睡から覚めた時、息子がそばにいたので「これからどう世話をあげられるかわからない。自分がどうなっていくのかもわからない」と話しました。

すると息子は私を見て「お母さん、人生は10%が与えられたもので、90%は自分がどうしていくかだよ」と言ったのです。それが行動を起こすきっかけでした。この寄生虫に打ち勝つ。そしてそれができた時、私は最高の人生を送り、残された日々を賢明に使ったことになる、と思いました。

その同じ年、私は自分の目標を立てました。

2025年までに10億人の命のために役立つという誓いです。[私にとって]世界が止まってしまったこの4年間は、いわば待機状態でした。ですから文字通りにも比喩としても、ついに自分の足で立ち上がって、私をあの昏睡に陥れた病気と闘いたいと思っています。

グローバルファンドはその闘いを最も強力に、最も大きな効果を挙げながら進めています。世界中のマラリア対策資金の大半は、グローバルファンドが調達しています。

グローバルファンドの使命のために私の声を役立て、日々マラリアと闘っている人々に寄り添った発言をしていきたいです。

チェンジメーカーの一人であることをどう考えていますか。

私はチャンピオンだと自負しています。チャンピオンである人々は変化をもたらすことができます。

私の経歴や私の立場、私の声、そしてアスリートとしての能力は、対話を始め、問題に焦点を当て、必要である時には注意を喚起するための助けになり得ます。

私の役割はグローバルファンドからの呼びかけを増幅させることです。マラリアとの闘いに真の変化をもたらすことのできる対策への投資が必要だという呼びかけです。

私の話が政府や支援機関、民間パートナーの心を動かし、グローバルファンドの支援に繋がることで、マラリアを終息させたい。それがサバイバーとしての私の願いです。